孤独・孤立に向けた藤里町社会福祉協議会の活動紹介①

①1990年～ 一人の不幸も見逃さない運動

♥本人の同意を得た対象者名簿作製と同時に、当事者支援事業の実施（一人暮らし高齢者交流会・介護者の集い・知的障がい者家族交流事業等）

♠地域の方々を支援する側とされる側に分けることの矛盾と弊害⇒不幸な人を見つけ出す運動からの脱却。誰もが困ったと声を出せる地域づくり運動へ

②2005年～ 支援する人される人を隔てないトータルケア推進事業を開始

♥「藤里方式」では、支援が必要な人は、支援する側にもなれるという発想のもと、地域の役に立ちたいという思いに寄り添う支援を実施。

♠その対象は、高齢者や障がい者等を想定していたが、それ以上に、所属する場所を持たない若者層支援が急務と感じた。

③2010年～ 「こみっと」における活躍支援事業開始（ひきこもり者及び長期不就労者及び在宅障がい者等支援事業）

⇒地域ぐるみで支える場、誰もがキャリアアップ・キャリアチェンジを目指せる場を目指した。

♥情報提供のための家庭訪問⇒人口4000人の町で11 t 3人が対象者名簿に載ることを了承。その殆どが家から出て、研修事業を含む「こみっと」支援により、8割以上が一般就労を果たす。

♠若者支援の選択肢を広げるため、市町村単位ではなく、広域での多様な展開が必要？

④2015年～ 全世代対応の活躍支援事業の開始

♥プラチナバンク事業が、町民の注目度・関心度の高い事業になり、プラチナバンクスタッフが大きな役割を果たしている。

年度	登録会員数	活動延人数	年間活動収入額
2016	301人	3,773人	11,159,621円
2019	385人	7,006人	38,700,870

孤独・孤立に向けた藤里町社会福祉協議会の活動紹介②

①1990年～ 一人の不幸も見逃さない運動

♥本人の同意を得た対象者名簿作製と同時に、当事者支援事業の実施（一人暮らし高齢者交流会・介護者の集い・知的障がい者家族交流事業等）

♠地域の方々を支援する側とされる側に分けることの矛盾と弊害⇒不幸な人を見つけ出す運動からの脱却。誰もが困ったと声を出せる地域づくり運動へ

➤④地域には孤独・孤立対策のノウハウを持つ個人・団体が多く存在しているのでは？

②2005年～ 支援する人される人を隔てないトータルケア推進事業を開始

➤社協が組織として取り組んだことで成果を出せた

♥「藤里方式」では、支援が必要な人は、支援する側にもなれるという発想のもと、地域の役に立ちたいという思いに寄り添う支援を実施。

♠その対象は、高齢者や障がい者等を想定していたが、それ以上に、所属する場所を持たない若者層支援が急務と感じた。

③2010年～ 「こみっと」における活躍支援事業開始（ひきこもり者及び長期不就労者及び在宅障がい者等支援事業）

⇒地域ぐるみで支える場、誰もがキャリアアップ・キャリアチェンジを目指せる場を目指した。

♥情報提供のための家庭訪問⇒人口4000人の町で11 t 3人が対象者名簿に載ることを了承。その殆どが家から出て、研修事業を含む「こみっと」支援により、8割以上が一般就労を果たす。

♠ため、市町村単位ではなく、広域での多様な展開が必要若者支援の選択肢を広げる？

➤②孤独・孤立対策事業にとって、コロナ禍はチャンス？

➤③地域ぐるみで支える・活躍支援・多様な選択肢の必要性

➤④プラットフォーム構想の可能性に期待する。

④2015年～ 全世代対応の活躍支援事業の開始

♥プラチナバンク事業が、町民の注目度・関心度の高い事業になり、プラチナバンクスタッフが大きな役割を果たしている。

年度	登録会員数	活動延人数	年間活動収入額
2016	301人	3,773人	11,159,621円
2019	385人	7,006人	38,700,870

➤プラチナバンクスタッフの役割の重要性について、なかなか認識して貰えずにいる